

平成22年度第3回中原区区民会議

日時 平成23年1月19日（水）15：00～
場所 中原区役所5階 502・503会議室

午後 3 時 開 会

1 開会

司会 それでは、皆様、定刻となりましたので、平成22年度第3回中原区区民会議を開催いたします。最初に欠席の委員の皆様ですが、本日山川委員が欠席とのご連絡をいただいております。また、参与の皆様につきましては、滝田参与は所用によりご欠席、志村参与、吉岡参与も所用によりおくれて参加という連絡をいただいております。また、潮田参与、大庭参与、松原参与、東参与合計4名の方は今向かっている最中との連絡が入っておりますので、少しおくれて来られるものと存じます。

それでは初めに、中原区長、小野寺よりごあいさつを申し上げます。

区長 皆様、こんにちは。中原区長の小野寺でございます。

本日は第3回目の区民会議ということですがけれども、ことしに入りまして初めての区民会議ということでもございますので、改めまして本年もどうぞよろしくお願ひいたします。委員の方々、また参与の方々には大変お忙しい中ご出席をいただきまして、大変ありがとうございます。

さて、前回の第2回区民会議が10月13日に開催されました。「安全・安心のきずなづくりに向けて」ということで、皆様方にいろいろとご議論をいただきました。さらに、本日の本会議までにこのテーマをより効果的に区民会議の論議につなげていくということで、この間2回ほど課題調査部会を開催させていただくとともに、委員の皆様方には実際に上丸子小学校、それから中原中学校での避難所訓練、さらには子ども未来フェスタに出向いていただきまして、若い区民の方々を対象に防災のアンケートをとっていただくなど、本当に精力的に活動していただきまして、委員の皆様方には大変お世話になりました。

私も子ども未来フェスタに参加いたしまして、若い皆さん方と話をすることができたのですが、そのそばで一生懸命アンケートをとっていただいております、本当にありがたいなということを感じました。おかげさまで、今回の「安全・安心のきずなづくりに向けて」というテーマにつきましては、委員の皆様の共通認識も深まり、よりよい方向で取り組みの内容が出てくるものと期待しているところでございます。本当にありがとうございます。

これらの活動の成果を踏まえまして、本日第3回目のこの会議の中で、「安全・安心のきずなづくりに向けて」のテーマにつきましては、それぞれの地域、区民、区民会議の皆様に取り組んでいただきたいこと、あるいは区民と行政が協働して取り組んでいただきたいこと、あるいは行政が取り組むべきこと、それぞれの具体的な実行方法についてこれから検討いたしまして取り組み内容を決めていただき、次のテーマにつなげていきたいと考えております。よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、本日の区民会議が実り多い議論になりますことをご期待申し上げまして、簡

単ではございますがごあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

司会 ありがとうございます。この会議でございますが、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づきまして公開で行われ、傍聴があった場合にはこれを許可することとなります。また、会議録を作成し公開することとなりますので、ご了解いただきたいと存じます。なお、会議では報道関係の取材につきましても協力しておりますので、これにつきましてもご了解いただきたいと存じます。

それでは、まず事務局より資料の確認をさせていただきます。

事務局 事務局の綱島でございます。よろしくお願いいたします。では、座って失礼させていただきます。

まず最初に、第3回中原区区民会議の次第でございます。

続きまして、別添資料1、席次表でございます。その席次表の裏に別添資料2、委員及び参与の名簿でございます。

引き続きまして、資料1といたしまして、第2回区民会議、10月13日開催分の委員の意見・提案の整理をまとめたものでございます。資料2といたしまして、上丸子小学校・中原中学校避難所運営訓練 子ども未来フェスタ・アンケートの調査結果（まとめ）でございます。資料3といたしまして、検討テーマ「安全・安心のきずなづくりに向けて」取り組み事項（案）でございます。資料4といたしまして、中原区における子育て支援策についてでございます。資料5といたしまして、平成22年度区民会議交流会の開催について（案）でございます。

続きまして、参考資料でございます。参考資料1—1といたしまして、課題調査部会会議録、11月8日分でございます。同じく資料1—2といたしまして、課題調査部会会議録、11月30日分でございます。引き続きまして、参考資料2といたしまして、上丸子小学校避難所運営訓練参加者アンケート結果でございます。参考資料3といたしまして、中原中学校避難所運営訓練参加者アンケート結果でございます。参考資料4といたしまして、第5回なかはら子ども未来フェスタ参加者アンケート結果でございます。参考資料5といたしまして、避難所運営訓練調査・参加区民会議委員報告等でございます。続きまして、参考資料6、「身近な防災に関する制度」についてのアンケート結果でございますが、10月13日の第2回区民会議でこの資料を出したんですが、ちょっと間違いがございましたので、申しわけございませんが、10月13日分の資料の差しかえをお願いいたします。引き続きまして、参考資料7、運営部会会議録、12月27日分でございます。続きまして、参考資料8「(地域組織と取り組み)」。これは吉房委員の提案をまとめたものでございます。引き続きまして、参考資料9、平成22年度「武蔵小杉駅周辺放置自転車台数調査報告書」でございます。参考資料10といたしまして、これはカラー刷りでございまして、放置自転車のないまち通信第7号でございます。続きまして、参考資料11、『中原の魅力を教えて！

第1回なかはらフォトコンテスト』実施報告でございます。続きまして、参考資料12、第3期中原区区民会議のスケジュール及び審議の流れ（案）でございます。

最後に、資料添付を2つご用意させていただきまして、まず最初、中原区市民提案型事業の募集案内。それと中原区地域福祉計画（案）の説明会のお知らせ。以上でございます。

資料につきまして過不足等がございましたら挙手をお願いしたいんですが、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

事務局 では、資料の確認につきましては以上でございます。

司会 ありがとうございます。それでは、ここからの進行は鈴木委員長にお任せしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

鈴木委員長 それでは改めまして、皆様、こんにちは。ことし初めてということで、山川委員を除きまして、皆様のお顔を拝見できてとてもうれしく思います。

前回までは、藤枝委員長が必ずまぐら言葉にいろんなことをおっしゃっていておもしろいなと思って聞いていたんですけども、私は何も話さず突入しておりました。たまたま、今回は新聞の経済欄だったんですけども、この国をよくしていくにはどうしたらいいかというようなコラムがありまして、その中にこういうのがありました。これは中原区区民会議もそうですけれども、我々、皆さん市民団体から来ているわけで、その市民活動全般に言えることではないかなと思いましたので、ちょっとご紹介させていただきたいと思えます。

この国がよくなるにはということで、安全な場所において他人を批判してはいけないと。そうではなくて、みずから汗をかいて行動しましょう。さらに、他人に要求するのではなく、みずから責任を負う覚悟を決めましょうという、たったこれだけなんですけれども、とても含蓄ある言葉かなと思えました。ぜひ、この中原区区民会議がこのようになっていけば、区全体も市民活動もよくなるかなと思いましたので、ご紹介させていただきました。

2 会議録確認委員の選任

鈴木委員長 それでは、議事に早速入りたいと思えます。まず、会議録確認委員の選任をさせていただきます。前回は稲富委員、大下委員でございましたので、名簿の順で恐縮ではございますけれども、今回は岡本委員と川崎委員ということでよろしくお願いいたします。

3 議題

鈴木委員長 それでは、議題に入らせていただきます。

(1) 課題調査部会報告

～課題解決に向けた取組みの提案及び意見交換～

鈴木委員長 まず議題の(1)です。課題調査部会報告が2回行われたということで、その報告と意見交換を行いたいと思います。前回10月に開催した第2回区民会議を受けまして、11月に課題調査部会が開催されました。課題調査部会は当初1回の予定でしたけれども、おさまり切らず語り尽くせなかったということで、2回行われたということでございます。また、おかげさまで避難所運営訓練にも皆様、先ほど区長からありましたけれども、みんなで分担して見学に行き、勉強させていただきました。そのような中で、課題調査部会で話し合われた内容につきまして、川連副委員長にご報告をいただきたいと思いません。また、区民会議として安全・安心のきずなづくりに対する取組みということでお話をさせていただいておりますので、その点ご報告お願いしたいと思います。

それでは、川連副委員長、よろしくお願ひいたします。

川連副委員長 課題調査部会の川連でございます。それでは報告させていただきます。

課題調査部会は、11月8日と11月30日に2回開催いたしました。いずれも部会委員7名全員が出席して行いました。11月8日の部会では、まず初めに、第1回部会の冒頭で部会長と副部会長の選出を行い、部会長に私、川連、副部会長に芳賀委員が就任することとなりました。

次に、資料1をごらんになっていただきたいと思ひます。こちらは、昨年10月13日に開催されました第2回の本会議で、各委員から出された意見を記載してあります6つの分野、防災訓練の実施からコミュニティ形成、コミュニティ形成・人間関係構築、既存組織・制度の連携、情報発信、子育て世代への対策、それ以外のものに整理をしたものでございます。

左上の防災訓練の実施からコミュニティ形成の欄を見ていただきますとわかりますように、防災訓練に関係する意見がたくさん出されました。例えば、各地域で行われる防災訓練やイベントを通じて、地域の間関係を見直すことが重要であります。また、いつ襲ってくるかわからない災害に備え、地域の組織、住民、行政が連携して防災訓練を実施することが大切であるなどといった意見が多く出されました。そのようなことから、中原区内で実施されている防災訓練について、地域の取組みの現状について理解を深めるために地域振興課の担当者の説明を受けました。

正面のスクリーンをごらんください。

[パワーポイント]

川連副委員長 中原区では、川崎市立の小・中・高等学校及び聾学校を避難所として指定しており、全部で27カ所の避難所が指定されておりますが、こちらのマップは、避難所単位に見た場合にどのぐらいの訓練が行われているかを色別であらわしたものでございま

す。赤色で示したものは中学校で、8つあるすべての中学校が小学校を含んだ中学校区で合同の訓練を実施しております。青色で示している学校は6校ありますが、避難所ごとの避難所運営訓練を実施しているところがございます。学校名を緑色にしている学校は9校ありますが、地域の自主防災組織により学校を活用して防災訓練を実施しているところがございます。学校名、建物とも白色の学校は、避難所を使った訓練が実施されていない学校となり、区内に6校あると説明を受けました。こうした説明などを受けた上で、委員からは防災訓練にはどのぐらいの参加者があるのか、どのような訓練をしているのかなど、実施状況について把握する必要がありますので、現況を把握した上で防災に関することを多くの区民に啓発していくことが大切であるといった意見が出されました。また、これまでの防災訓練に参加したことがない委員もいたことから、11月に区内で実施される防災訓練に参加し、実態を調査した上で課題調査部会としての取り組みを決めることといたしました。

さらに、子育て世代が7区で最も多い中原区ということもあり、子育て世代が多く参加するなかはら子ども未来フェスタが11月に開催されることから、子育て世代の防災への意識を把握するためアンケート調査を行うことを決定いたしました。この決定により、課題調査部会だけではなく委員全体に参加を呼びかけまして、11月14日に上丸子小学校、11月28日に中原中学校の避難所運営訓練に参加し、訓練の様子を見学するとともに、参加者へのアンケート調査を実施いたしました。

正面のスクリーンをごらんください。こちらは上丸子小学校での避難所運営訓練の様子を写したものでございます。上丸子小学校は、今回初めての避難所運営訓練を実施したとのことで、7つの町内・自治会から自主防災組織と学校関係者が参加して訓練が行われました。

次のスクリーンをごらんください。こちらは、中原中学校での避難所運営訓練の様子を写しております。区民会議委員でもある青木会長を中心に、3年連続で避難所運営訓練を実施しているとのことで毎年参加者をかえるなど、できるだけ多くの方に参加してもらえようように4つの町内会、自主防災組織と学校関係者で訓練を実施しておりました。特徴的であったのは、中学校の部活動と連携した訓練を行っており、若い世代の参加者が多かったことが幅広い世代での実施という面によかったと感じました。

次のスクリーンをごらんください。こちらは11月27日に開催されました子ども未来フェスタでの若い世代へのアンケート調査と、防災関係の啓発冊子の配布を行ったときの様子を示しております。新型インフルエンザの関係で昨年度は中止となり、2年ぶりの開催となりましたが、多くの方が参加をされ、約300名の方からアンケートの回答をいただくとともに、防災関係の啓発冊子などの配布を行いました。

以上が、調査などを行った際の様子でございます。

お手元の資料に戻りまして、資料2をごらんになってください。こちらは、上丸子小学

校と中原中学校の避難所運営訓練での参加者アンケート結果と、子ども未来フェスタでのアンケート結果をまとめた資料でございます。

1 番のアンケート回答者ですが、初めて避難所運営訓練を実施した上丸子小学校では、町会を中心に参加を呼びかけていることもあり、60歳以上の方が約7割を占めておりました。中原中学校では部活動と連携して訓練を実施したこともあり、中学生の参加者が大変多くありました。2 番の防災訓練への参加実態については、上丸子小学校では、今回初めての訓練に参加した方が70%、子ども未来フェスタでは訓練に参加したことがない方が55%と、訓練を実施していない地区では、多くの方が防災訓練の未体験者と想定されるため、訓練の実施を呼びかける必要があるという結果となりました。また、若い世代では防災訓練に参加したことがない方が多くいることが推測されました。3 番の防災情報の入手先については、若い世代に対しては、インターネットやインターネットメールによる情報伝達は効果があることがわかりました。特に、町内会・自治会に加入がない世帯では、回覧板が回ってこないことから、インターネットなどは有効なツールと推測されました。4 番の防災訓練に参加した感想については、初めて避難所運営訓練を実施した上丸子小学校では、訓練に参加して得たものは多くあったと感じた方が多くいた一方で、地域での連携の難しさを感じた方も多かった結果となりました。5 番の災害に対する備えについては、若い世代の参加者が多い未来フェスタや中原中学校のほうでは、高齢者が多かった上丸子小学校に比べて何も備えていない人が多い結果となりました。6 番の避難場所・避難所の認知度については、訓練参加者の方が避難所の認知度が高く、また、未来フェスタでの回答から若い世代では避難所を知らない方が多いことが推測される結果となりました。7 番の防災マップなどの認知度については、若い世代ほど防災マップなどを持っていない方が多いことが推測される結果となりました。

なお、各アンケートの結果の詳細については、参考資料2から4にそれぞれ添付しております。また、各委員から提出がありました訓練を見学した感想などの報告についても、参考資料5に添付しておりますので、参考としていただきたいと思います。

ただいま報告した3回のアンケートの調査結果や、訓練の見学で得た情報などをもとに、11月30日に開催した第2回の課題調査部会で、課題解決に向けた取り組み事項の検討を行いました。

資料3をごらんになってください。資料3には、課題調査部会としてアンケートの結果を踏まえ、具体的な取り組みをまとめております。資料3の1ページ目は、地域・区民・区民会議が主体となって取り組む項目を挙げております。また、2ページ目には区民と行政が協働で取り組むもの。それから、3ページ目には行政が取り組むものと、そのほか今後の検討課題をまとめております。

初めに、1ページ目の地域・区民・区民会議が主体となった取り組み事項ですが、区民の防災意識の向上を取り組みとして挙げました。なぜこの分野に取り組むかといいます

と、防災訓練の参加者からは日ごろからの備えの必要性の声が多く寄せられたことや、若い世代では防災に備える意識が低い傾向にあることから取り組み事項として挙げました。

具体的には、上段にありますように、区民会議委員出身団体における防災意識の向上ということ掲げております。区民会議委員出身団体などでぼうさい出前講座を開催することで、より多くの方へ防災意識を持ってもらうようにしていきたいと思っております。実行主体は区民会議を始め各団体でございます。私のほうも2月7日、出身母体である中原区商店街連合会で、早速ぼうさい出前講座を実施することになりました。皆様も出身団体などで実施可能な場合は、事務局のほうまでお声をかけていただきたいと思います。

次に、子育て世代における防止意識の向上ですが、中原区は20歳から30歳代の世代が7区で一番多い区であります。地域の方が運営する子育てサロンなどで乳幼児子育て世代向けのぼうさい出前講座を開催し、若い世代への防災意識の向上を図るといったものでございます。実行主体は各地区子育て支援推進委員会や民生委員児童委員協議会となります。

2ページ目に参りまして、区民と行政が協働で取り組む事項ですが、初めに既存組織の連携強化を取り組みとして挙げました。これは災害時の地域での活動の核となる避難所運営会議を円滑に運営するためには、自主防災組織、学校、PTAの連携が欠かせないということから取り組みに加えました。初めて避難所訓練を実施した上丸子小学校では、地域での連携が難しいという声が多く寄せられました。

具体的な実施方法といたしましては、避難所運営会議の連携を図るため、自主防災組織、学校、PTAを構成員とした防災ネットワーク連絡会議を毎年定期的で開催することで、避難所ごとの連携、強化を図るものでございます。実行主体は自主防災組織、学校、PTA、中原区役所となります。

次に、防災訓練未実施地区での訓練実施を取り組みとして挙げました。これは訓練を実施していない地区では多くの方が避難訓練の未体験者と想定されるため、訓練の実施を呼びかける必要があることから取り組み事項に加えました。

具体的な実施方法といたしましては、地域の自主防災組織に訓練の必要性を一層認識してもらうよう働きかけ、訓練未実施地区に対して小・中学校を拠点とした訓練を計画的に実施する準備を行っていくものでございます。こちらも実行主体は自主防災組織、学校、PTA、中原区役所となります。

次に、区民の防災意識の向上を取り組みとして挙げました。

具体的な実施方法としましては、1つは区民の防災意識の向上を図るため防災に関する講演会、フォーラムなどを開催していきます。実行主体は自主防災組織、中原区役所となります。具体的な実行方法の2つ目としましては、区民会議での議論を受けて区民の防災意識を啓発することを目的に、市民提案型事業において防災意識向上事業を実施します。具体的には、中原区が実施する既存のイベントを活用して、イベントに参加している区民に防災への意識を高める事業を実施することを取り組みに加えております。実行主体は各

団体、中原区役所、区民会議となります。

3 ページ目の行政の取り組みにつきましては、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは、事務局のほうから行政の取り組みにつきましてご説明申し上げます。

まず最初の、取り組み分野の内容の最初でございます。若い世代に向けた防災情報の発信。先ほど川連副委員長のほうから訓練に行った感想にも入ってございましたように、なかなか若い世代では防災の情報が行き届いていないという状況がございまして、防災訓練の参加者も少ないため、こういった対策を講じる必要があるのではないか。2 番目といたしましては、若い世代では、アンケート結果からもわかるように、自分の避難場所、避難所等を知らない方が多く、こういった認知度を向上させる必要があるのではないかということでございます。

具体的な取り組み方法、実施方法について、3 点ほど挙げてございます。まず最初、インターネットを活用して、地域で実施される防災訓練等の情報を提供することで、若い世代の訓練の参加を促していくということございまして、中原区役所のホームページ等を活用いたしまして、地域の防災訓練の情報発信をしてみたいと考えております。2 番目といたしまして、出生の届け出や転入の手続の際に配付している中原区子育て情報ガイドブックというのがございまして、これまで防災の情報が入ってございませんでしたので、これからは防災情報をその中に掲載することで、若い世代に対して防災意識の向上につなげていきたいと考えてございます。3 点目といたしましては、防災ネットワークエリアマップ（8 地区）ということで、これは昨年度作成しましたもので、中原区は中学校区が8 地区ございまして、その8 地区ごとに避難所の位置とか避難圏域みたいな、あわせたマップがあるんですが、そういったマップを今後もっと若い世代に周知していただくために、今後は区内のこども文化センター、あるいは保育園などに配布をして、幅広く防災の内容を市民の方に提供していきたいと考えてございます。

その他の取り組みといたしまして、既存制度の連携強化ということで、これも第2 回目の区民会議で話がございましたように、まず民生委員の独自活動でございます災害時一人も見逃さない運動と、行政の制度でございます災害時要援護者避難支援制度となかなかこの連携がうまくできていないので、課題解決を図ったらどうかという形で区民会議のほうでもご提案いただいております。現在、制度を所管しております総務局危機管理室と健康福祉局、地域保健福祉課と相談しながら協議をしているところでございます。現在、検討課題と今回させていただきますが、第3 期中の区民会議の中で方向性が出た段階で、またこの場でご報告をさせていただきたいと考えてございます。行政の取り組みといたしましては以上でございます。

それでは、川連副委員長にお返しいたします。

川連副委員長 ありがとうございます。

以上、10月の本会議以降に課題調査部会で審議を行ってきまして経過などの報告とさせ

ていただきます。どうもありがとうございました。

鈴木委員長 川連副委員長、ありがとうございました。

課題調査部会では、皆様の報告とその結果を皆様にご提案ということで幾つか案を出していただきました。皆様のご意見をこれからお聞きしたいと思います。ご自由に発言をお願いしたいんですが、先日、私も中原中学校の避難所訓練に行きまして、中学生が何か一生懸命トイレを組み立てていて、異常に難しく1時間以上かかって、芳賀委員がもう我慢できなくて一生懸命手を出して何とか完成しましたけれども、それを主催されておりました青木委員、いかがでしょうか。今の川連副委員長の報告とそれから出された提案につきましてご意見がありましたら、お願いいたしたいと思います。

青木委員 今ご案内しましたように、11月28日に中原中学校避難所運営訓練の防災訓練がありまして、これには中原中学校の生徒、職員、PTAの役員など、今回までに80名ぐらい。毎年大体そのぐらいの人数で、3年生は進学ということで毎回2年生と1年生を対象にしてやっています。今回も部活動を中心にやっていただきましたけれども、やはり頭がやわらかいから簡易トイレの組み立てなんかも非常に手際がよくて、去年より一昨年のほうが、そういう面ですぐれている子が多かったのか、去年はちょっと戸惑いがあったような感じがいたしました。私どもは防災訓練をここ3年ぐらい連続でやっていますけれども、1回出た人は極力かわって、要するに、防災訓練はやはり訓練を体験することが何といても一番大事なことなので、そういう意味では1年生、2年生というのは、特に1年生は初めてということになりますので、生徒も初めて、それから、4町会のメンバーの方も極力今まで出ていなかった方に経験してもらおうということでやって、したがって、3年間ほど同じような内容の訓練をして、特に人命救助が一番大事なので、AEDとか三角巾の使い方とか、ふだんなかなか経験できないようなことを、しかし、いざというときは大変重要なことを中心にやっていただいて、学校ですから水を使ったような消火訓練は、ちょっと小規模にしてということで取り組んでまいりまして、本当に学校のほうも校長を始め皆さん大変喜んでおりまして、これからもぜひ毎年続けてほしいということです。ただ、ここ2年間は11月で、その前が8月だったんですけれども、地震というのはいつ来るかわかりませんので、これからはなるべく時期を変えてこれからやっていきたいということも考えております。

本当に大ざっぱですけれども、以上でございます。

鈴木委員長 ありがとうございました。満遍なくいろんな方に出ていただくということと、それから時期を変えると。地震はいつ来るかわかりませんので、それはとてもいい案だと思います。そのほか、今後取り組むということで出前講座を始めとする地域の取り組み、それから行政と協働とする取り組み、そして行政との取り組みという案が出されておりますが、それについてのご意見などありましたら伺いたしたいと思います。いかがでしょうか。

松原委員、いかがですか。

松原委員 中原中学校の防災訓練に参加、見学させていただきましたけれども、このところでちょっと気がついたんですが、三角巾の使い方というのをやっておりましたよね。あれは、実際皆さんのご家庭でどこに置いてあって、いつ取り出せるのかということに、非常に問題があるんだろうと思うんですよ。例えば三角巾の布がないとき、ふろしき、タオル、手ぬぐいで応急の処置ができるというのは数多くあろうと思うんですね。むしろ、そういうことも交えた訓練が必要ではなかろうかなと思いました。

鈴木委員長 ありがとうございます。本当に、震災が来て何もないうち、手当たり次第、何でもいから使わなくちゃいけないですものね。青木委員、このような意見がございましたので、何かそういうのもお願いします。そういえば、私もあのときもらって今どこにしまったかなと、ちょっと不安になりましたけれども……。

ほかにご意見はございませんでしょうか。

大下委員、いかがでしたか。これは中学生でしたけれども、例えば、ご自分のお子さんは小学生で、どんなことができるかなということもお考えになったかなと思いますけれども、ご意見をお願いします。

大下委員 先日は貴重な体験というか、訓練に参加させていただきましたありがとうございます。私もそのときつくづく感じたのが、頭の中では大変なことが起こるんだろうということを、いろいろ当日も事前に映像で拝見して思っていたんですが、実際に何か自分で行動を起こそうと思ったときには、今、松原委員がおっしゃっていたとおり、きちんと何かおぜん立てがあって、そこから次のステップでないと私はすぐには考えつかないんだなと当日つくづく感じました。体験をしたいものではないんですけれども、常日ごろから、やっぱりうちでは子どもたちとも、こういったときにはどうしたらいいだろうということ話し合っていく必要があるんだなと、当日つくづく思いました。

鈴木委員長 本当にそうですよね。すごく印象的でしたよね。最初の画像を見たとき、心臓がちょっとどきどきしました。川連副委員長なんかは、実際に阪神大震災のときに行かれて写真を撮られたというお話をリアルにお聞きしまして、えっというような感じがしましたね。

例えば、この間は時間を決めて避難したんですけれども、稲富委員みたいに会社にいる場合の家族への連絡の仕方とか、そういうようなことで何かご意見はございますか。

稲富委員 今、会社のほうでは、携帯を使った連絡ルートというのを徹底しております。例えば、ドコモだったらこういう手順で連絡をとるとか、auだったらこうだというもの一人一人にカードを配って、いつも携帯しなさいと。それを携帯することによって、こういう携帯を通じた、電話は当然無理ですから、メールを使ったシステムが使えるよとか、あとは、たまたま当社、富士通の中では、安否確認システムというのがあります。事前に登録しておいて、災害があると本部から携帯にメールが入りまして、それで

安全なら「あ」という文字だけを送り返せば生きているという確認がとれるというシステムも導入されていて、そういった訓練も日々の防災訓練の中でやっているということもあります。ただ、携帯がだめだったときどうなのかというのは課題かなと思っております。今はそんな現状です。

鈴木委員長 やっぱり大きな会社はたくさん従業員の方がいらっしゃいますから、そのようなシステムにちゃんとなっているんだなと思いましたけれども、そういうシステムが全くなくて、特に若い人たちなんかどうするんでしょうかね。反町委員、いかがですか。

反町委員 私どもの世代は、もともと余り防災に対する意識というのは高くないのは確かで、今回実際にアンケートなどもとった子育て世代の方々も、きっと子育てに精いっぱい、なかなか常日ごろから防災の準備までは、そういう意識とかも含めてしていないのかなと思っております。

そんな中で、今回いろんな対策の中で、例えば、子育てのガイドブックの中に防災の情報をちょっと入れるとかというのはすごくいいなと思っています。新しく冊子をつくったりとか、そういう冊子ばかりふえてしまってもなかなか読まないんですね。でも、それが、そのときご自身にとってすごく大切な子育ての情報が、子育てはすごく大切なことだと思うので、その大切なことが書いてあるガイドブックであればきっと大事にする。その大事にとっておく本の中に、そういうちょっとした情報が入っているとすごく無駄がなくていいなと思いました。

それから、あとはやはり意識を高めていくというところでは、今、中原区にある資源を生かしているというところで、まさにそういうイベントであったり、若者あるいは子育て世代であれば、そういう方たちが集まる催し物がありますので、そこでうまくPRをするというのが、一番お金も手間もかけずにできていいんじゃないかなと思っております。そういう取り組みをもっとやっていくことによって、今意識の薄い世代にもきっと関心、意識は深めていけるんじゃないかなと思っています。

鈴木委員長 ありがとうございます。子育て団体もそうですけれども、我々はいろんな団体から来ていますので、その出身母体で出前講座をするという地域・区民・区民会議の取り組みの中で案がありますけれども、川連副委員長も企画されておりますよね。

川連副委員長 はい。私のほうもトップを切ってやりたいと思ひまして、きょうは中原区商店連合会の会長も見えていますけれども、私が会長に提案をしまして許可をいただきましたので、早速2月7日に区役所でやることになりました。皆さんもどうぞ右に倣えで、これからどんどん団体でやっていただきたいと思ひます。

鈴木委員長 2月7日、もうすぐですね。実は私も、とどろき水辺の楽校の4月の開講式に出前講座をお願いしようかなと考えております。子どもたちにわかりやすく、何かそういうツールを使ってやってもらえたらいいかなと考えておりますけれども、吉房委員、そんな中で子ども向けに何かそういう防災とかで使えるようなものの提案がございませうか。

吉房委員 きょうの区民会議で、私は2点ばかりの提案があります。1つは、皆さん、参考資料8を見ていただきたいんですが、これを見て、まず地域の取り組みについて私から説明をして、ご賛同を得られれば、これが中原区全体に広がっていけば大変いいなというものでございます。

現在、中原区は人口が23万人。これからもっとふえるということは事実でございます。その中に、保育園、託児所、これら公のものが非常に少なく、人口がふえれば——今中原区は若い世代が多いんですね。例えば、今小杉駅周辺のマンションの約70%は30代ということを知っています。それで、子どもも非常に多い。

それはさておいて、今、私の既存の町会。やはり今、こういうようなすぐ隣のマンションがありますけれども、子どもが非常にふえて、そういう託児所また保育園が足りないということで、今、私は小杉町2丁目に住んでいるんですが、新丸子の西口の方面に私立の保育園また託児所が4件今できているんですね。また1件はつくり中です。そういう状態の中で、中原区は今77町会ありますけれども、その77町会の中に公園が必ずあるんです。77町会全部にあるとは私は思っておりませんが、ほとんど必ず各団体に公園があります。その公園の中に砂場があるんです。砂場というのは、いわゆる子どもが遊ぶ砂場ですね。そこに私立の各保育園、託児所の子どもを黄色い箱に乗せて、20名か15～16名を保育士が連れて行って、砂場へ行って遊ばせるということを私は提案したい。これは、私は実際に行って見たんですが、その砂場で遊んでいる子どもを指導しているのは保育士だけです。その人数の15名から20名の中に保育士が3名いるんですね。3名じゃちょっと足りないと思ったんです。

それはさておいて、各町会には老人会というものがあるんですね。私が考えたのは、老人会の方々がもしそういうことに気がいたら、その砂場へ行って子どもと一緒に遊んでやる。子どもにお年寄りの知恵を授けて、一緒に遊ぶ。もう1つは、これは防犯のほうに絡んでいくんですが、大人も一緒に遊んで、また若い人も参加してもらいたいんですね。これを中原区全体的に広めていきたいということを、この参考資料に私ほうたっているんです。

もう1つは、老人の方が表へ出て、ひなたへ出れば、認知症もある程度は防げるというようなことを聞いております。そういうプラス面もありまして、ぜひそういう子どもを見ましたら参加してもらいたい。私は、これを中原区全体にこの区民会議から発信して、そういうことを励行していきたいと今考えているんです。

もう1つは、その保育園から来るコースまで非常に交通量が多い。黄色い箱と黄色い帽子と黄色い上着を着ている園児がいるんですが、やはり今、交通は非常に危険ですから、私のほうで、十字路で交通整理を2人でやっているんですが、そういう方面にも気がついたらば、ちょっとお手伝い願えれば非常にいいんじゃないかと思っております。そんなことで、地域の取り組みについて、今話したことが1点です。

もう1点は、先日新聞を見ましたら、今、阪神・淡路大震災から16年がたつんです。その中に阪神・淡路大震災で6000何名かのとうとい人命が失われたんですが、その中に、やはりいろいろと、家が倒壊した、その下敷きになった、助け合うということはもちろんそんなんですが、阪神大震災というのは、あそこは昔から地震が来ないというようなことで非常に無防備なまちだったということは聞いております。新聞にも出ておりましたね。そこに、一応地震がおさまった後に、では、何をしたらいいんだろうということで、ふだん全然話し合っていない人がお互いに助け合って何とかやろうじゃないかと一致団結したことが、人と人とのつながりですね。今、中原区の区民会議のテーマになっております「安全・安心のきずなづくりに向けて」で、私はこれが1つの参考になるんじゃないかと思っております。

1つは、阪神・淡路大震災のときに、お互いに助け合った、人と人とのつながりを、きずなを大切にしたということ。阪神・淡路大震災から各県の防災意識が高まったということ、もちろん中原区もそんなんです。よく私は言うんですが、もう関東大震災から87年たっていて、いまだにこの辺は——もちろんこんないまちはなくて、地震はなくて、今、地震ばけしちゃっていて、訓練とかはやっているんですが、意識は非常に薄れているということは確実なんです。そういうことで、私は先ほど言った公園のことなんかも、1つのそういうちょっとしたこともお手伝いできれば非常にいいなと思っております。そんなことでお願いしたいということなんです。

今度は2つ目なんですが、今私は実際に持っているんですが、紙芝居。これは防止の紙芝居なんです。私よりは委員長に後ろをちょっと説明してもらいたい。この絵で。これは防災の紙芝居。これは子育てをやっている箇所に行って、子どもに——これだけ持って行って、これを見てやってもらいたい。

鈴木委員長 今、吉房委員が探し出してきて、防災のときに、例えば、本日の提案の中にも、子育て世代のサロンに行って出前講座をしたらどうかというような提案がありましたよね。そんなときに、小さい子どもは難しい話をされても、私の水辺の楽校も、本当のことを言うと、危機管理室の方が来て難しい話をするよりも、こういう紙芝居をしてくれたほうがいいかななんて思ったんです。例えば、「たすかったジョン」というのです。「けんちゃん、原っぱに行って野球しない?」「うん、行こう」、こんなことから始まって、ジョンというワンちゃんを連れていくと。最後までやると全部時間がなくなりますので、吉房さんのお話が長いのに、さらに続きましてお話が長くなっちゃったら困るのでここでやめますけれども、このような紙芝居のご提案でした。ありがとうございました。

吉房委員 そんなことで、防災の紙芝居。前から思っていたんですが、こういうのがあるとは全く知らなかったので、自分でつくったって漫画なんてうまくできるもんじゃないから、こういうものを今子育てをやっている場所、今中原区ではいこいの家が7カ所ありますけれども、そこでみんな子育てをやっている、各学校のあいているところでもやってお

りますから、そういうところに行って出前で紙芝居をやって、防災意識を高めてもらう。そこには若いお母さんも来ておりますから、子どもも一生懸命見るんじゃないか。また、子どもは感性が強いですから、ぜひこれを見てもらって防災意識を高めてもらいたいと、この2つを提案したいと思います。よろしくお願いします。

鈴木委員長 ありがとうございます。

それでは、今何人かの方にもご意見をいただきましたけれども、次にこの中で追加できるような案も、例えば、今の吉房さんの紙芝居などもありましたので、大筋で、川連副委員長から提案していただいた案とをまとめまして、皆様のご了承をいただいて区民会議の案ということにさせていただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

松原委員 私、ちょっと提案があります。

先日の訓練で中学生の利用は非常によかったと思うんですが、やはり即戦力になるのは中学生だろうと思うんですね。この中学生をもっと、表現が悪いですが活用する方法。例えば、渋谷区の中学生が防災訓練にどういうことをやっているかということ、2年生はいわゆる人工呼吸。これをもう義務づけられている。3年生は何をやるかといいますと、小型ポンプの操法をやっているんですね。これは渋谷区の区民が非常にすばらしいということで、初期消火に役立つだろうと言われております。実際に担当者と私は電話で話しました。これはやっぱり中原区でも、もしワンステップ上げてそういう方法ができれば、すばらしいんじゃないかと思いました。

鈴木委員長 大変貴重なご意見ありがとうございます。そうですね、中学生がただ出るだけよりも……。矢野委員、どうぞ。

矢野委員 前回欠席だったものですから、今の取り組みに余り参加できなかったんですけども、私ども工場の代表ということでお話をさせていただきます。

中原区人口23万人を超える数字ということなんですが、これはいわゆる住民票上に載っている人数かと思うんですけども、企業側から見ますと、昼間の人口——就労人口と、逆に昼間は外へ出ていっている人もいらっしゃる。去年国勢調査もありましたんでしょうけれども、こちら辺の数字が、実態はどれぐらいいるのかなど。今、防災のお話がいっぱい出ていましたけれども、これはあくまで、みんな自宅にいる想定みたいになっちゃっているかなということもありまして、私ども、これは自社の話になっちゃうんですけども、実際法人では親会社といいますか、取引先の関係もあって、BCPプラン、Business continuity planというものを策定しろということで、Business continuity managementに取り組みなさいという話になっておりまして、災害時に対して、ifを全部並べてインフラの整備。まず人命が第一なんですけど、実際には何かあったら、まずとにかく帰れということですね。そういうことから始まりまして、実際にそういうプランを全部練って、インフラ整備は対応可能なか不可なのかという話まで含めまして、先ほど携帯の話も出たんですが、アンテナが全部ひっくり返っちゃったら、携帯だってつながらないだろうと、そう

いう話もあります。先ほど神戸の震災の話も出たんですけれども、あれはもう電話がまるっきり通じませんで、実際には、人口が幾らだったか忘れちゃったんですけれども、神戸は10万回線分しか電話回線を持っていなかったんですね。災害になりますと、双方向から一斉にかかることになると、もうパンク状態になりますので、公衆電話以外は全部神戸の市外局番を回しただけでシャットアウトになっていたということだったかと思います。

そんなこともありまして、情報連絡の話とか、先ほど必ずみんな民生委員のほうで生存確認みたいなお話もありましたけれども、そこら辺というのは、策定はしていても実際に起きたときに本当にどうするのかという話が、ちょっと理想に近くなっちゃうとまずいかなと感じられたものですから、我々は企業の中で、こういう形で従業員のことを考えながらやっておりますし、ある種、それなりの災害用の用品も用意しています。てこだ、担架だ、何とかも社内では持っていますけれども、では、夜に起こったら何にも役に立たない。そういったいつ来るかわからないのが災害かと思しますので、それこそifを幾つ並べて、幾つそれに対応というか、策定しておくかということ。それなりにつくって某機関に評価していただいたけれども、実際にプランとしては非常時対応なんかはいいんですけれども、そのほか、我々業務を続けなければいけないものですから、すぐ回復するか、いろいろ評価してもらいましたら、総合評価は42点と最低でした。まだまだ改善の余地があると言われまして、本当に大きな災害といっても、私どもの知っているのは神戸の震災と中越の地震なんですけど、中越のほうにも結構仕事上のつき合いのあるお客さんがおられて、現実に起きたときに、回復の状態を後で冊子にして送ってくれたんですね。現実に起きたときにどうなったかという話で、それこそ何トンもあるプレス機械が1メートルも動いたとか、そういった災害防止に対しての、起きたときの被害を最小にとどめるという話も含めて、こういう練り込みをしています。

今、避難所等々にそれなりに皆さんは集まる、防災に対しての備えはよろしいとしましても、本当の家庭のところから始まるんじゃないかなと私は思っているものですから、倒壊防止用の、しょっちゅうつけては移動すると外してしまっただけのままになっていたりもしているんです。細かいところまで言いますと切りがないと思うんですけれども、やはりインフラ、情報連絡網みたいなものが町内会であろうかと思いますが、私も実際に自分の住んでいる区では、9月には朝何時に集合して行って、名前のチェックして帰ってくるようなことをやっておるんですけれども、常に住民が何人おるかということも把握しておくことが、行政を含めた町内会の仕事かなと思っております。

そんなことですので、先ほど申しました昼夜の話とか、ひっくり返っちゃいますと、企業側としては何かのときに、先ほどの避難所の小学校、中学校を利用できるものなのか、できないものなのか。とにかく何かあればすぐ帰れということにはなっていますけれども、交通もまずだめでしょうし。前にもありましたよね、東京のほうから中原街道ですとか246を全部歩いて帰ってくるような話もあったかと思うんですが、それを含めたお話が

ないと、区の中ではありますけれども、外へ行っている人、外から来ている人ということがあろうかと思えます。そこら辺もちょっとご配慮いただければと思っています。

鈴木委員長 ありがとうございます。

どうぞ、村山さん。

村山委員 阪神・淡路大震災の話が出たので、一言だけ。

実は、うちの息子がちょうど大学で神戸にいまして、まず震災が起こったときに、こちらから電話をかけても一切かかりません。やっと昼ごろになって息子のほうから電話がありまして、それで避難所のほうから声がかかってどうぞと言われたらしいんですが、自分には京都に友達がいる、そちらへ向かうからということで、先方からは電話が通じるんですね。そういうことで入ったと。それから、もうあの一帯が、いわゆる災害対策ができていまして、もう着のみ着のままで友だちのところへ歩いて行ったら、途中でタクシーが寄ってきて、どこへ行くんだということで、お金も取らずにどうぞということで大阪まで行って、京都の友人のところまで行ったということです。

ですから、被災地からは電話が通じるようなので、日ごろから家族のそういう会話、これは振り込め詐欺にも通じると思いますので、一言ちょっとそういうことを申し上げます。

鈴木委員長 ありがとうございます。この防災の話に関しましては、インフラの話になっちゃくと、我々区民会議がどうすることもできないと。これはあくまでも国が取り組んでもらわなければいけないので、その辺は国の体制も数々の震災に遭って整いつつあるのではないかという期待の上で、我々が市民として何をできるか。区民会議で、一市民として。先ほど矢野委員からも、村山委員からも出たお話は、結論的に言うと、その家族単位でちゃんとやるのが一番大事なんだよというお話でしたよね。結論はそういうことなので、それで我々がどんなことに取り組んでいけるのかということで出された案に、今の松原委員、村山委員、そして矢野委員、吉房委員の意見なども取り入れまして、本会議の本件の案にさせていただきたいと思えます。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

鈴木委員長 ありがとうございます。

(2) 運営部会報告

～第4回区民会議の検討テーマについて～

鈴木委員長 それでは次に、我々、運営部会も開催されましたので、その運営部会会議の様子です。本日のテーマや次のテーマについて先日話し合いましたので、それにつきまして杉野副委員長よりご報告をお願いしたいと思います。

杉野副委員長 時間も大分押してまいりまして、私の言葉でご報告しようかと思ったんですが、また長くなってしまうと申しわけないと思えますので、まとめてきておりますの

で、読ませていただきます。

それでは、ご報告させていただきます。第2回運営部会は12月27日に開催されました。部会委員が6名のうち、吉房さんは都合で欠席されましたので、出席者5名で審議を行いました。

まず、本日第3回の区民会議の運営に当たりまして、課題調査部会の報告を受け、会議日程の調整を行って本日開催の運びとなったわけでございます。次回開催されます第4回区民会議で話し合う検討テーマについて審議を行いました。それをご報告させていただきます。また、この検討委員会の会議録につきましては、お手元の参考資料7に添付してございますので、ご参照していただければと思います。

当日の部会では、第1回区民会議で各委員から提案された検討テーマを参考に、また、最初のテーマを決めた8月の運営部会での議論を振り返りながら次回の検討テーマについて意見交換を行いました。8月の運営部会では、最初のテーマ「安全・安心のきずなづくりに向けて」を選定しました。その際に、次のテーマを「地域における子育て応援体制づくり」ということで候補として挙げておきましたので、どのような方向性で区民会議で子育てというテーマに取り組むかという視点で意見交換を行いました。

主な意見としましては、1点目といたしまして、中原区では地域の方が中心となって子育てサロンが活発に運営されている、また、こども支援室を中心に、乳幼児向け、学齢期向けの地域の方々を構成員としたネットワーク会議があり、情報交換やイベントの実施などが行われております。もっと多くの方々に参加していただくためには、取り組みを多くの方に知ってもらうことが課題であるという意見がありました。特に子育てサロンの場合は3年間で次々と変わっていくということでございます。

子育てサロンに関する意見といたしましては、中原区の子育てサロンは全国的にも比較的高いレベルの取り組みができていないかと思っております。しかし、担い手が不足しているという課題があります。自主ボランティアの育成が必要であることは、非常に重要な部分であります。また、もっと身近な地域で、具体的には町内会を中心としたサロンに新たにに取り組むことができるのではないかと、取り組むような地域のきずなというものを確立するにはこれも重要なのではないかとのご意見もございました。この意見に対しては、中原区としては平成22年度から新たにボランティアの育成という研修会的なことも取り組み始めているという説明もございました。

また、子育てボランティアが少ないのでふやしていきたいという視点では、区民会議自身が取り組みをしにくく、もっと区民会議が議論することで自分たちで何を解決していくといった観点で審議をしていくべきだという意見が出されました。また、別の意見としましては、子育てサロンにも行けず、また、近隣の人などにも相談できず、子育てに悩んでいる方を救うために相談体制を充実させることや、どこにも行けずに悩んでいる人を受け入れる場づくりが必要ではないかというご意見もございました。この意見に関連しまして

は、先ほど吉房委員のほうからお話がありましたように、公園を活用した保育園園児と老人会などによる世代間交流の新たな取り組みの提案についても意見交換を行いました。吉房委員からの提案は、参考資料の8に添付しております。

この件に関しまして出された主な意見といたしましては、1つ目として、この提案は非常によいアイデアであります。高齢者も幼児もどちらも支援が必要な対象であることから、活動をコーディネートやフォローしてくれる人材が、万が一のときの補償の問題などを担保した上で実施するべきだという意見もございました。2つ目といたしましては、子育てサロンや既存の公園に行けない子育てに悩んでいる人がいるので、このような取り組みが実現すれば新たな場となるのではないかといった意見が出されました。また、子育てのテーマではなく、環境、大企業との連携、観光スポットなど、以前出されたテーマの候補についても振り返りを行いました。運営部会といたしましては、応援体制がなければ、サロンなどの既存の取り組みや、吉房委員から出された新たな取り組みなどもできないことから、地域における子育て応援体制づくりを次のテーマと決定することにしました。

できるだけ区民会議として、また、地域として、自分たちが取り組みやすい方向性で審議を進めていきたいと考えていますが、子育て支援といっても、児童という対象がゼロ歳から18歳未満と——これは児童福祉法でそういう広い年齢幅になっております。具体的にどこを区民会議として議論していくか絞り込みすることができませんでした。本日、皆様からもご意見をいただきたいと願っております。

以上、運営部会からの報告とさせていただきます。どうもありがとうございました。急ぎまして、申しわけございません。

鈴木委員長 杉野副委員長、ありがとうございました。この運営部会は結構議論が白熱したということで、子育てということが実はとても難しいということに皆さんそれぞれ気がつきました。この中で、要するに、まず応援体制をつくるのが大事ではないかという意見が大変出されて、それについて議論してこういうテーマにさせていただきたいなと思いました。

松本委員、運営委員として子育ての視野からご意見をお願いします。

松本委員 子育てサロンはゼロ歳から3歳までということで、確かに充実した活動ではありますけれども、ここに参加される方が3年間継続して来るわけではなくて、中には1回ぼっきりで終わる方もいらっしゃるし、いろんなサロンを元気に渡り歩くお母さんもいらっしゃる。そういう対象ははっきりしていない。ただ、皆さん来てくださいというところで、地域の方と、それから地域の親子と触れ合いましょうというサロンになっているので、悩みの相談というところも、本当に本音を聞くというところまでのサロンにはなっていない。例えば、悩みを抱えたお母さんたちがどこにそういう相談をしたらいいか、そういう連絡先をどういう形でお知らせしていくかが結構重要なところではないかと思いま

す。

この資料4を皆さんに見ていただくと、中原区のいろんな団体の取り組みがわかってくると思うんですけども、ここにありますように、健全な親子関係を築く。要するに、子育てするのは親であって、その親が元気な子育てをするために、私たち地域は何をお手伝いしたらいいかというところが基本だと思いますので、親に元気な子育てをしてもらうためにどこに応援したらいいかというところを皆さんでいろいろ話し合っていたいただくのが一番いいのかなと。

それからあと、サロンは私も始めて8年になりますけれども、8年間相変わらず中心でやっております。先ほど担い手がいないとありましたけれども、ちょっと高齢になられた方でも8年間ずっと立ち上げのときからかかわっているスタッフさんもたくさんいるわけで、その中には民生委員とか社会福祉協議会の方とか地域ボランティアの方もいますけれども、若い世代というか、子育て真っ最中の方は無理としても、お子さんが高校とか大学とかに行って、ちょっとゆとりの出てきた方たちの参加というものがまたそれはそれでなかなか難しいもので、ぜひそういう若い方をどんどん支援のほうに一緒に協力してくださいというところでみんなで声かけをしていくにはどうしたらいいかというあたりですね。それを何か考えていったらいいのではないかなと思いました。

鈴木委員長 そうですね。本当におっしゃるとおりだと思います。

今、松本委員から資料4というお話が出ましたので、これは中原区における子育て支援対策ということですので、事務局のほうから中原区の現在の支援策の状況のご説明をお願いしたいと思います。

事務局 では、事務局から簡単に、中原区におけます子育て支援策ということで、資料4をごらんいただきたいと存じます。

まず、先ほど出ましたように、(1)健全な親子関係を築くための子育て支援策ということで表にかいてございます。表の見方といたしましては、縦軸が対象年齢が低いほうから高いほう、横軸が行政の関与度が低いほうから高いほうという形で位置づけをプロットしたものでございます。例えば、左のほうの子ども会、青少年指導員・ボーイスカウトなどの取り組みについては行政の関与度が低くて、なおかつ0～3歳からずっと上の高校生までを網羅しているという見方でございます。逆に右端のこども文化センター、家庭・地域教育学級などの取り組みにつきましては、対象年齢は同じく広いんですが、これは行政の関与度が高いというような位置づけにしてございます。真ん中に置いてございますのが、子ども未来フェスタとか、市民提案型事業、自主企画事業などの子育て関連事業がおおむね真ん中ぐらいに来るのではないかなというように見方でございます。それと、右の上のほうで、(2)子育てに悩む方への学ぶ場の提供ということで、現状の取り組みとしては、ここに6個掲げてございますように、育児相談とか、ちびっこ健康教室、幼児相談等の子育てに悩む方への学ぶ場の提供を行っているところでございます。

こういった現状を受けて、今後この区民会議の中でこういった点をポイントとして議論していただければということで、論点という形で2点ほど挙げさせていただきました。まず最初の1点目としましては、「今ある制度の拡充か？」ということで、例えば、先ほど出ました子育てサロンにつきましては、なかなか担い手がない、ボランティアの育成をしたらいいのではないか、また、町内会でも取り組んではどうかという現状、今ある制度の拡充について議論していくのか。あるいは、今後、「未開拓の分野への着手か？」ということで、例えば、公園や子育てサロンに行けない人たちの対策とか、高齢者と子育て世代の橋渡しみたいなものをやったらどうかという論点につきましてはおおむね2点ほど挙げられるのではないかと考えてございます。

そこから導き出すのは、「子育ての支援策の何が課題か？」ということで、現状の制度の中で課題を見つけるのか、あるいは、制度がないこと、上の地図で言えば白いところについて何かやっていかなければいけない、そういうのが課題かどうかというのをこの区民会議の中でこれからご議論をいただければと考えてございます。

事務局からの報告は以上でございます。

鈴木委員長 ありがとうございます。この図を見て、皆さん、今の企画課長のご説明で感じられたことが随分あると思うんですけども、このグレーに塗られていない部分が結構あるということに着目できるかなとも思います。我々区民会議として、今あるこの制度を拡充して充実させていくのか、あるいは、全くないこの白い部分に取り組んでいくのか、その辺を論点に、あと15分ぐらいございますので意見を交換していきたいと思えます。皆様のご意見を賜りたいと思えます。

藤嶋委員、いかがでしょうか。

藤嶋委員 子ども会のあり方ということが前から——子育ては0～3歳ということなんです、うちのほうは町会と子ども会が仲よくいなくて、だめなんですね。子どもたちは楽しみがなくて本当にかわいそうだなというのが現状です。

ちょっと申しわけないんですが、先ほどの防災のことも、伺おうと思っても門を閉ざして来なくていいというようなおうちも多いんですね。そういうときに行政のほうから行っていただけたら、またそういうのもやっていただきたいと思っております。気にはしておりますが、一切近所とはつき合わないというおうちもたくさんあると思えます。

鈴木委員長 前にもこういう話題が出ましたね。町内会にももちろん入らないしというふうになると個人の力ではどうすることもできないわけです。

今の既存の制度を拡充するか、あるいは、全くないところに我々が着目していくかというような観点から、岡本委員、いかがですか。

岡本委員 私たちも、今現在、中原区に育児グループというのが結構あるんです。30近くのグループがあるわけなんです。そこへ私たちは食生活改善推進員として、栄養教室やら、いろんなところで応援に行っているんですけども、育児グループがある程度あるん

ですけれども、枠があるためにそこへ入れないあふれている方が結構中原区にいるそうなんです。

それで、こども文化センターの館長さんが私たちに、あふれている区民たちをまた応援してもらえませんかというようなことが入ってきたりして、そこでまたご一緒したりするんですけれども、そういうお子さんたちをどういうふうにしていくのか。もっと枠を——リーダーがいないためにできないのか、会場がないためにできないのか、その辺がまだ私にはよくわかっていませんけれども、その人たちをどういうふうに救っていったらいいのかなという疑問に思っているんです。

会に入っている人は、いろんな会に応援してくださいということは要請が来るわけなんです。そこには、今、私たちは、紙芝居を持っていったり、ちょっとしたおやつをつくったり、運動してみたり、いろんな方面から皆さんとご一緒できるんですけれども、あふれたお子さんたちはそれができないのでちょっとかわいそうかなということで、どういうふうにしたらいいんだろうなということを疑問に思っていました。

鈴木委員長 ありがとうございます。川崎委員、いかがですか。

川崎委員 いろんなお話を伺いながら、いろんなことが頭の中でぐるぐるめぐりますけれども、ちょっと整理がついていないんですが、思うところによると、情報が、片一方では情報過多、片一方では情報不足で、意外と町会のことに関しても、子ども会に関しても、子ども会は小学生だけが対象だったりするから、卒業してしまつたらつながりがなくなってしまうとか、いろいろ難しい面は多分あるんだと思うんですけれども、一貫して何かつながっていくようなものがないような気がしていて、そこを何とかできないのかなと思っています。私なんか昔子どものころは、朝起きたら母がいない、隣の家で違うお母さんに頭をすいてもらっていたなんていうことも結構あったりして、平気でそういうことができた時代だったと思うんですけれども、今、隣のおばちゃんだれということからして、現代の日本の社会だけかどうかはちょっとわからないんですけれども、いろんな複雑なことが起こり過ぎていて警戒心がすごく強くなっているということも片方ではあるのかなと思うんです。

片方は、でもそういった方々に手を差し伸べたいと思っても、先ほどおっしゃられたように閉ざされてしまうと、こちらが幾ら手を差し伸べてもどうしてさしあげることもできないというジレンマ。そこら辺のところも含めて、もっともっとコミュニケーション力、隣近所におはようございますと言ったらおはようございますと返してもらえるような人間関係の構築がとても大事なのかなと。そこら辺を含めてもっと私たち自身も努力していかないと、意識して心がけていかないときっとそういったことにはつながっていかないのではないかなと思います。

それでも女性はたくましくいろんなところに出かけて行ってコミュニケーションをとっていると思うんですけれども、例えば主人のことを考えてみますと、会社と家の往復だけ

で終わってしまって、定年退職したらこの人はどうするんだろうと真剣に思うところがあるんです。近所に見知った方がだれもいなくて寂しい老後を過ごすのかななんて思ったりもしてみるんですけども、そういったところから、町会も仲間に入れてほしいんじゃないですけども、積極的に声をかけて、何かイベント、お祭り、納涼祭とかそういうのだけではなくて、町の人たち、地域住民がもうちょっと交流できるようなところができるとうごくいいのかなと思ったりもしています。ありがとうございます。

鈴木委員長 今、子育て支援という話から、町内会だとか、横の連携とか、そういう話にも飛びましたけれども、今、川崎委員から、女性は積極的に出るんだけど男性はという意見が出ましたので、まだご意見を伺っていません男性の委員にお聞きしたいと思いません。寺岡委員からどうぞ。

寺岡委員 私も、今、川崎委員がおっしゃったように、コミュニケーションの場がやっぱり一番大事だと思っているんです。私は会社をやめてから3年くらいたって、やはり何か地域に貢献したいなと思って考えたものの中の一つは、吉房さんから出ている公園なんです。これに関して、私の家の近くには下沼部公園があるんですが、木もすごく茂っているし、幸い電車も南武線が通っているので、子どもの興味を引く非常にいい場所だったので、ここを何とかそういうコミュニケーションの場にしたいなと思って、公園事務所にも行きまして、木の伐採とか、バリアフリー化とか、いすとか遊具なんかを少しお願いして、ちょうど3年たって入れていただいたのは、遊具1つと、塗装してもらって、木の伐採をしてもらった。あと、バリアフリー化してもらって、さっきおっしゃった年配の方も来ていただいて、それで子どもさんと接触できれば一番いいなというふうに思っているんです。やはりそういう場というのは非常に大事じゃないかなと。そのためにいろんな経費もかかるし、非常に厳しいこういう予算の時期なので難しいかと思うんですけども、健康とかコミュニケーションとかいろんなものを考えたら、そちらの経費は非常に安いのではないかという気はしています。

それで、中原区には公園が多いですね。すべての公園をそういうふうにするのは難しいので、ある一定の面積を超える公園に関してそういうことを積極的に私はやってほしいなと。そうすれば、今おっしゃるコミュニケーションを含めたいろんな面で、子どもさんを通じて親御さんがそういういろんな場に出やすくなる。私も孫がいるんですけども、そういう公園に連れて行って初めて、子どもと子ども、それが親につながっていろいろな会合とかグループに参加できるのではないかと思います。

さっきおっしゃったけれども、最近、2つか3つの保育園がその公園に子どもを連れてきていらっしゃるんですね。1度話をしたんですけども、できればそのところに物置みたいなものを置いていただいて、そこにその地区の子どもさんの遊び終わった遊具関係を入れておいて、遊びに来たらその物置から出して使えるというようなことができればいいなと思っていただんですけども、その遊具が壊れて子どもがけがをしたらどうするのとい

うことを公園事務所の方からも言われたんです。そこまで考えたらしようがないんですけども、できれば本当は要らなくなった遊具なんかを公園の物置において、遊びに来たら出して使うということにすれば、もっと子どもさんも来て、親御さんも来て、そこに年配の方も来ていろいろとコミュニケーションをとれる場ができるのではないかなと思うので、それが結局、そういう防災を含めたつながりになっていくのではないかなと思うので、そういうこともひとつ検討課題としていただいたらありがたいと思っています。

鈴木委員長 ありがとうございます。今のお話ですけれども、その場づくりということで今お話がありましたね。先ほども責任問題のお話が出ましたけれども、吉房さんのすばらしいご意見に関しましても、結局、公園ですると、幼い子供も、お年寄りの方も、両方とも実は我々が———というか、普通の人支援しなければいけない状況の方たちを集める、そうすると責任はどこに持っていくんだというところから、大変すばらしいアイデアではあるけれどもちょっと考えたほうがいいかもしれないねという意見が実は運営部会でも出たんです。

それと、寺岡さんの意見はとてもすばらしいと思いますけれども、行政にこうしてもらおう、ああしてもらおう以前に、例えば、そういういい場所があってそういう状況であれば、小さなことでもいいから我々が何かできることはないだろうかというところから話を広げていけば、子育ての応援体制づくりという人づくりにもつながっていくのではないかなと思います。このテーマに寺岡さんのご意見が沿っていないということではないんですけれども、より深く考えていただければ実は沿っていくことが可能である、実現も可能であると思います。

富岡委員、今まで聞いてきて、男性の側からできる応援体制のようなことはいかがでしょうか。

富岡委員 応援体制はなかなか難しいんですが、ゼロ歳から3歳までの子育てサロンをやっておりますけれども、ここに出席しない親子、この人たちの支援をどうしようかというのが課題になっておまして、行政のほうでこんにち赤ちゃん事業というのが始まりました。これは生まれてすぐ3カ月までの家庭にボランティアが訪問して、グッズを届けたり、お話をしたりする運動でございまして、これが子育てサロンにつながっていけば空白部分が埋まるということで、とてもいいことかなと思っております。それから、保育園の待機児童がたくさんいるという問題がありますね。それもまた難しいことなんですけど、何とかしていただければありがたいと思っております。

それから、小学生に入りますと、いじめの問題だとか、虐待等、登校拒否もあります。ひどくなりますと自殺する子どもさんがいるという現実があります。それから、中学生ぐらいになりますと、また万引きだとか暴力で相手の方をけがさせてしまったとか、そういった問題が発生してくるんです。高校生になりますと、いろんな薬物だとか非行の問題に走るということがありますので、やはり地域で、そういった子どもたち、親とのきずなを

しっかり持っていないと、ぽかっと抜けた部分でそういったところに走ってしまいますので、大もとは家庭なんですけれども、家庭がしっかりしていればそういうことは起こらないんですが、また、今、食育ということで、そういったことも話されております。それから、あいさつ運動をやっております。あいさつ運動で、児童の登下校時、登校時なんですけど、交通安全運動とあいさつを兼ねましてやっておりますが、おはようと子どもたちに声をかけますと、2割か3割ぐらいしか声が戻ってきません。根気よくやっておりますけれども、日本人は照れ屋さんなので、声を発するというのがなかなか難しいみたいで、これは地道にやればいかなと思っております。

ここの白い部分はそういうところで抜けているのかなと思っております、やはり身近に相談を受ける場所ですね。こども支援室というのがありますけれども、近所で町会単位ぐらいで、町会のおじいさん、おばあさんが相談事を聞いてあげるよというような場所があるとすばらしいかなと思っておりますので、場の問題ですね。それが私は必要かなと思っております。

今、きずなが本当になくなってきちゃって、隣は何をする人ぞで全然わかりませんので、そういった部分。また、これからどんどん高層マンションが建ってきますとそういった傾向がどんどん強くなっていきますので、そういった対策をしていくべきかなと思っております。無縁社会とよく言われますけれども、これは早いところ絶ち切っていければいいと思っております。

鈴木委員長 ありがとうございます。今のご意見で、この空白の部分に着目していただきまして、それが場づくりであったり、人づくりであったりというようなご意見をいただきました。

今、ご意見をいただいている板倉委員に先にご意見をいただいているのですか。

板倉委員 吉房委員のお話の中で、園児との世代間交流というのがあったんですが、園児の動きが物すごく速くて、多分高齢者の方は追いつかないんじゃないかと。そうなりますと、やはり対象とするのは、小学校と高齢者の世代間交流、こんなあたりが世代間交流だと妥当なのかなと。これは私の意見です。

それと、中原区まちづくり推進委員会というのがございまして、この中に公園井戸端会議プロジェクトというのがあるんです。これは公園の活用をどうするかとか、それから、できれば公園の中で世代間交流まで持っていきたいなということで、けん玉とかべいごまとかおはじきとか、一応、昔の老人の方々が遊んだそれなりの小道具がありますので、そういうものを使って世代間交流を公園の中でやっていくというのも1つの手かなと考えています。

鈴木委員長 ありがとうございます。

青木委員、どうぞ。

青木委員 私も子育てサロンを丸子地区でやっているし、中原もそうなんですけれども、

子どもの心の成長というのは3歳で6割終わっちゃうんですね。それで、8歳で全部終わって、その後に幾らやっても子どもの性格というのはもう変わらないと言われているわけです。また、「三つ子の魂百まで」という諺がありますとおり、3歳のときの性格は一生変わらないと言うことです。ですから、3歳までのところの子育てサロンは本当に大事ななど。要するに、そこに出てこられない親子さんを——今、こんにちには赤ちゃん訪問と新生児訪問、中原にある18の子育てサロン・ふれあい広場とにかく出てきてもらって、そこで若い親の交流とか、それから子どもの子育ての仕方とか、そういうことを世代間で交流することによって、親に虐待させたりということがないように、そういう意味でとにかく子育てサロンが本当に大事だと私は思います。

あと3年か4年すると、今の小学6年生までがすべて子育てサロンに赤ちゃんとして参加した。あと6年ぐらいたつと中学生が全部子育てサロンに参加した、赤ちゃんでだっこされたということなんですね。ですから、極端な話、将来保護司さんの仕事なんかなくなってしまうのではないかと。そのくらい子育てサロンの3歳までのところが一番大事だと私は思う。そうすれば、成人式も荒れない、中学校も荒れない、そういう形で、ですから、このところをひとつ一生懸命力を入れていただければと思います。

鈴木委員長 ありがとうございます。夢と希望にあふれた青木委員のご意見でございました。

松本委員。

松本委員 サロンも大切なんですけど、どうしてサロンに来られないかということを考えると、例えば、集団が苦手であるとか。今サロンはあちこちで行われていますけれども、人数がすごく大規模なものですから、そういうところでどうしても行き渋る方とかがたくさんいると思うんです。そういう方たちが、先ほど富岡委員が言ったように、地域の町会の中で何かそういう悩みを相談したり、本当に少人数で集まれるような触れ合いの場も確かに必要であって、子育てサロンがすべてではなくて、やはりそれと並行してそういう小さな交流の場もつくっていかなければいけないと思います。

鈴木委員長 そのとおりだと思います。どういうところでも、子育てでも何でもそうですけれども、来られる人はいいい、来られる親はいいい、来られる子どもはいいい。でも、来られない人をどうするかということが実は一番の論点で、その辺を皆さんが今スポットを浴びせてくださいましたので、その辺を応援体制として来てもらえるようにどのようにしむけるか、どういうアクションを起こしていくかということはこの区民会議のテーマとして、次回、地域における子育て応援体制づくりということのをテーマに、もっともっと奥深く話し合っていけばと思います。

これで子育てということにつきまして論議を終わらせていただきまして、3月の本会議で、そういうのを実践している団体の事例紹介だとかも、久しぶりですけどもしてみ、みんなでもたさらに掘り下げていければいいかなと思います。進め方につきまして

は、2月中にまた運営会議を開催しますので、そのときにまた進めていければと思います。それまでに何かご意見がございます方は、事務局のほうにお伝え願えればと思っております。

(3) その他

・ 7 区区民会議交流会の開催について

鈴木委員長 次に、ちょっと時間が押してしまいましたけれども、議題の(3)その他、7区区民会議交流会について、私から説明させていただきます。

資料の5をごらんください。「平成22年度区民会議交流会の開催について(案)」ということで、日時が3月19日土曜日の1時から3時まででございます。これは自治推進フォーラムの分科会の1つとして行われます。昨年度は同時開催ということで、藤枝委員長と私と横川委員が部会長ということで出席させていただきましたけれども、今年度は私と副委員長2名と、3名で出席させていただきたいと思っております。詳細につきましてはここに書いてございますので、ごらんください。

それに先立ちまして、これが始まる前なんですけれども、準備会というのを各区から1人出て開催いたしまして、打ち合わせをさせていただきました。どの区も抱えている課題は大体同じです。地域コミュニティが足りないとか、うちの区と同じような課題でございます。子どもにつきましては、やはり中原区が一番課題を抱えているかなというふうに感じました。そういうことで、3月19日1時から高津市民館の大会議室でございます。傍聴席がございますので、皆様、ご多忙と思えますけれども、ぜひご出席願いたいと思っております。

何か質問はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

・ 第2期の審議課題に対する取り組みについて

鈴木委員長 なければ次に、芳賀委員から、第2期区民会議の審議課題に対するご報告をいただいておりますので、芳賀委員、ご報告をお願いいたします。

芳賀委員 参考資料9をお開きいただければと思います。そちらのほうに、先立って11月11日、16日に武蔵小杉駅周辺の放置自転車の調査をした結果が載っております。

その前に、大変僭越なんですけれども、参考資料5の3ページ目で、私が中原中学校の避難所の運営訓練を見学したことのメモを入れておいたんですけれども、その中で、3番目の「訓練に、中学生が参加していた。緩急の時」というのは「緊急の時」です。ちょっと字を打ち間違えておりますので、本当に恥ずかしい話なんですけれども、字を訂正させていただきます。

ここに戻ってしまっただけで申しわけないんですけれども、一言この辺について申し上げさせ

てもらおうと、中学生が非常に生き生きと活動していたし、いいところにこちらの町会の方が目をつけられたと思います。中学生というのは、そういうところで何か役割を与えるととてもよく動く年代です。私も長いことボーイスカウトをしておりまして、ボーイスカウトというのは中学生を中心にやっております。彼らには常々そういうサバイバル訓練というものを、今どきそんなのをやっていると笑われるようなこともやっております。

ですから、中学生レベルには能力があるというふうに皆さんに考えていただいて、各避難所で中学生を活用する方法を考えていけたらと思います。中原区全域でぜひ中学生を活用していければ、大人の方がいろんなところで手が回らないところが十分できると思います。特にボーイスカウトは、きのう事務局長とお話ししたんですけれども、そういう組織のほうに属しておりまして、災害時には連絡網の役割を担うような、瞬時に組織を組めるようになっているということ。特に中原区の場合にはボーイスカウト中原会というものが中心になって、それを縦に横に連絡できるようになっているので、ぜひ応用していただきたいという話でした。

それから、ガールスカウトのほうの県連の役員の方ともお話ししまして、やっぱり川崎市のガールスカウトもそういうことで常々訓練をしております。ファーストエイドというんですが、初期の救急活動とか、炊き出しとか、そういうものについては十分にお手伝いできますので、指名していただければぜひいつでもやらせていただきますということです。そちらのガールスカウトも中学生世代なんですね。ですから、そういうガール、ボーイということ言わず、中学生は能力があるんだということをひとつ皆さん承知していただいて、利用していただければと思います。

それでは、大変失礼しました。放置自転車のほうの報告の参考資料9に「放置自転車の調査について」ということで表書きを書いています。時間がないので、皆さん、読んでいただければと思います。

そういうことで、ずっとページをめくっていただいて、6ページ、7ページを見ていただければと思います。6ページ目には、本年度22年度に調査をしました数値が載っております。上に場所ということでマークにしてありますけれども、ちょっと見ていただいて、小杉駅の北側、それから南武線の南側とかというふうにエリアを分けてあります。そういうところで見えていきまして、次のページに行って、上のほうに全体の時間対比が載っております。そうすると、21年度、22年度で物すごい数字の結果が出ております。今までにこんなことはなかったんです。せいぜい5%上下するぐらいだったんですけれども、今回は大きいところでは30%を超えるようなデータが出ました。これはひとえに、区民会議を通じて市民のほうに宣伝した効果が出てきたのかなと思います。横須賀線の新駅が開通して1500台の大型の駐輪場ができたということも非常に大きな要因であるとは思いますが、やはり常々のモラルの高揚に努められたということでこういう結果が出たのかなと思っています。

この中から言えるのは、南武線の北側地域ですね。具体的に申し上げまして、タワーブレイスさん、それから横浜銀行さんの前あたりの自転車は相変わらず多いんです。逆にふえているような状態です。南側のほうはある程度一息ついている状況ですけれども、北側のほうでまだまだ放置自転車が多いということで、北部開発という未来志向の開発がありますので、そちらのほうでその辺のことを考慮していただければ自転車も少なくなると思いますし、北側でやれば恐らく新丸子のほうの混雑も緩和できるんじゃないかと思っています。宮内地区、小田中地区の皆さんが北側を利用されているという自転車の動線を見ますと、小杉に行くよりも新丸子に行ったほうが東急線に乗る方は早いので、そちらのほうに行かれていますので、一応そんなところです。

時間がなくて説明を詳しくできないんですけれども、以上でございます。

それから、次のページに「放置自転車のないまち通信7号」を載せてあります。次に、8号を4月1日付で発行する予定で編集しております。その表は、昔の風景と現在の風景が如実に物語っていると思います。同じ場所で写真を撮っております。片方は自転車がいっぱい、片方は自転車がない。時間的な問題もありますけれども、おおむねこのような状況に来ています。後ろのほうにちょっと一休みというところで蛇足のことを書いております。

以上でございます。お時間ありがとうございました。

鈴木委員長 芳賀委員、10年間もこんなにお続けになって本当にありがとうございました。

・市民提案型事業実施結果報告について

鈴木委員長 それでは、行政のほうから市民提案型事業実施結果報告について説明をお願いいたします。

事務局 地域振興課の川添と申します。よろしく願いいたします。詳しい内容については着席で説明させていただきます。

参考資料の11、A3の大きな紙で言うと後ろから2枚目になります。これは、平成22年度中原区市民提案型事業ということで、「『中原区の魅力を教えて！第1回なかはらフォトコンテスト』実施報告」でございます。

このフォトコンテストの開催目的は、第2期の中原区区民会議で審議されました「まちの魅力を見つける」というテーマを受けて、市民提案型事業として事業実施団体を募集いたしました。そして、実施された事業でございます。

目的といたしましては、中原区内で撮影された写真でコンテストを開催し、町の魅力を認識することで、郷土意識の醸成、中原区への愛着、ふるさと中原意識の醸成ということを目的として実施しております。

主催は、ふおと遊友という区役所5階の「なかはらっば」に集まっている写真愛好家の

メンバーで構成されております。

コンテストの作品募集は、昨年の7月1日から9月15日まで行いました。2L版という写真サイズのカラー写真を1人3枚を上限で募集いたしまして、その条件といたしましては、1年以内に中原区内で撮影された写真ということで募集いたしまして、その結果、43名の方から合計98点の応募がありました。写真展も開催いたしまして、昨年の10月16日、区民祭の前日ですが、川崎市市民ミュージアムで写真展を開催いたしました。それで、その来場者に写真を3点選んでもらって、選考会を兼ねる形で開催いたしました。

次に、審査会ですが、実施した団体が選任した6名の審査員、そこに書いてあるとおり区民会議の委員の方にもご協力願って審査会を実施いたしました。この審査に当たっては、普通の写真展のように芸術性や写真の美しさというよりも、区民に知ってもらいたい中原区の魅力が写っているかどうかということのを第一の基準に設けて審査を行いました。その結果、次の優秀作品発表ということで、優秀作品5点、それと入賞作品9点が決定いたしました。右側の写真がその作品でございます。市政だより、ことしの1月号中原区版に優秀作品を紹介させていただきました。また、2月には、入賞作品も含めた入選作品全体を区役所の1階で展示する予定でございますので、皆様、ぜひごらんになっていただきたいと思っております。

表彰式ですが、先日、1月16日の日曜日に中原区役所会議室で表彰状と賞品の授与をさせていただきます。

以上がなかはらフォトコンテストの実施報告でございます。

鈴木委員長 ありがとうございます。

何かご質問とかはございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

4 閉会

鈴木委員長 ないようでしたら、ちょうど時間になりました。吉房委員から2時間以内に上げるようにというきついお達しをいただいておりますが、吉房委員の意見で延びた分でございますので、きょうはお許しくださいます。

では最後に、事務局から連絡事項をお願いいたします。

事務局 それでは、時間が迫っていますので簡単に説明させていただきます。

まず、事務連絡でございます。第4回区民会議の日程でございますが、できれば3月17日木曜日または18日金曜日の両日で調整をさせていただきたいと思っております。資料には22日も書いてあるんですが、できれば3月17日木曜日あるいは18日金曜日、時間につきましては、本日と同じように15時から2時間程度という形で予定してございます。ご都合の悪い委員の皆様につきましては、この後事務局のほうにお申し出いただきたいと存じます。

それに先立ちまして、2月中に運営部会を開催する予定でございましたが、先ほど運営

部会の委員様に事前に事務局で調整した結果、2月15日の火曜日に運営部会を開催させていただきます。

あと2点ほど事務連絡をさせていただきます。まず第1点が「平成23年度中原区市民提案型事業」のお知らせということで、カラー刷りで1枚添付してございます。今週の月曜日から応募が始まりまして、2月4日までという形でことしも事業を募集してございます。特に、ことしにつきましては、今回のテーマの「安全・安心のきずなづくりに向けて」ということで、防災意識向上事業の実施をしていただく団体という形でBのところに団体を募集してございます。どうか区民会議の皆様のお出身団体に持ち寄っていただいて、ぜひご提案をしていただければと思います。

引き続きまして、最後になります。「中原区地域福祉計画（案）説明会」ということでお知らせを入れてございます。今年度第3期実行計画に合わせまして、中原区地域福祉計画もローリングをかけてございます。その説明会が2月14日月曜日、14時から16時、中原区役所の501会議室で行います。その福祉計画の説明の後に講演会がございまして、講師は柴田範子先生と言いまして、この中原区地域福祉計画の委員と委員長という形でご活躍された方の講演もございまして、ぜひ皆様お誘い合わせの上、2月14日月曜日、中原区地域福祉計画（案）の説明会にご出席いただきたいと思います。

事務局からは以上でございます。

鈴木委員長 ありがとうございます。2月15日の運営部会なんですが、時間は何時でしょうか。

事務局 失礼しました。10時からです。

鈴木委員長 では、2月15日の10時ということで運営部会の委員の皆様は予定してください。

少し時間が過ぎましたけれども、おかげさまで活発な意見を皆様から出していただくことができました。副委員長ともどもお礼申し上げます。

これで第3回中原区区民会議を終了させていただきます。ありがとうございます。

午後5時5分 閉会